

令和5年度第4回三重県教育改革推進会議概要

日 時 令和6年2月6日(火) 10時00分～12時00分

場 所 三重県総合教育センター 多目的ホール

出席者 三重県教育改革推進会議委員8名

●「三重県教育ビジョン（仮称）」（最終案）に関する主な意見等

- 個別最適な学びの充実だけでなく、他者を尊重する気持ちを育む取組などを通じて、子どもたちの可能性を最大限に引き出すことが大切。
- 学力格差など教育の成果のレベルでの教育格差について、国は都道府県間の学力格差や、家庭の社会経済的背景が学力に与える影響などを明らかにしている。教育格差があることを事実として示すだけでなく、どのような施策や取組が有効か分析した上で公表していく姿勢を持つことが重要。
- 障がい種別の異なる子どもたちが同じ学級で学校生活を送る場合、支援が難しいことがあり、課題に感じている。
- いじめは、学校の中だけでなく学校の外でも起こるため、子どもに関わる大人たちがいじめを防止するための目線を持つことが大切である。
- 不登校の子どもを含め子どもたちを権利を持つ主体として尊重することが大切。また、地域で行う生涯学習体験などは単年度の取組となることが多いため、継続して取り組むことができるとよいのではないか。
- 今後も暑い夏が予測される。気候に関わらず体育や実技の授業が実施できるよう、空調設備の整備を一層進めていただきたい。
- 教職員が子どもたちの自主的・自立的な学びを支えることができるよう、校長のマネジメント力を高める研修や授業づくりに関する研修などにより教職員の指導力の向上を図ることが大切。
- 若手教職員は、授業準備に加え子どもたちの関わり方などで苦勞していると聞く。新卒の教職員に対する手厚い支援があるとよいのではないか。

- 地域住民が学校運営に参画することは、学校だけでなく地域にもよい影響を与える。
- 学校における働き方改革は、具体的に進めることが大切。
- 教職員が少しでも休憩時間を確保できるよう、勤務環境の整備を進めることが大切。
- 教職員の業務量を削減することが大切で、学校が担っている業務の精査が必要ではないか。
- 高等学校の卒業に必要な単位数について、国で示されている基準を超えて卒業に必要な単位数を設定している学校が多いと聞く。卒業に必要な単位数を減らすことで、教職員が時間的な余裕を持って働くことができるのではないか。
- 教職員の定数改善などについては、他県も巻き込みながら国に働きかけることができるとよいのではないか。
- 学校における働き方改革を進める上では、教職員の意識を変えていくことも大切。
- 子どもの目線に立つことなど、教育ビジョンに示される重要なメッセージが県全体に伝わるようにすることが大切。
- 教育ビジョンは、まずは教職員が読むことが大切。研修などさまざまな機会を通じて伝えられるとよいのではないか。
- 家庭や企業の役割について理解が進むよう、わかりやすく周知を図ってほしい。
- 教員をめざす高校生や大学生に教育ビジョンを周知できるとよいのではないか。